

奈良県感染症情報

令和3年 第52週(12月27日～1月2日)
令和4年 第1週(1月3日～1月9日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 令和3年 第52週(12月27日～1月2日)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)(令和4年第1週)◆

順位	疾患名	奈良県		中部	南部
		定点当たり	増減		
1	感染性胃腸炎	5.00	(5.15) ↓	↓	↓
2	手足口病	0.53	(0.71) ↓	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	0.29	(0.03) ↑	↑↑	→
3	突発性発しん	0.29	(0.21) →	→	↓
5	咽頭結膜熱	0.24	(0.29) →	↑↑	↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第52週の新型コロナウイルス新規感染者数は26名と第51週より増加しています。令和4年第1週の新型コロナウイルス新規感染者数は368名と第52週より急増しています。
 県民のみならずには、引き続き感染予防の徹底へのご協力をお願いします。

◆県内概況(その他の感染症)◆

第52週から第1週にかけては年末年始で多くの医療機関が休診であったため、定点把握感染症の報告数は一時大幅に減少しています。
 時期はずれの流行が見られていた手足口病の定点当たり報告数は減少傾向にあります。また、インフルエンザの報告はありません。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

年末のため慢性疾患の受診者が少ない程度であった。感染性胃腸炎と水痘が少数であった。
 インフルエンザの発生はなかった。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

ノロ様の感染性胃腸炎が年末から続いでみられる。
 軽度の嘔吐、短期の下痢で熱は少ない軽症経過。家族内感染も少ない様子。
 年末休校等で接触機会減少のためか咳嗽等の上気道の感染例は少なかつた。
 水痘が少しあった。発熱例は少なくCovid19疑い例、インフルエンザ疑い例はなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

軽症胃腸炎が増加、各種迅速検査では陰性で、対症療法で軽快している。
 手足口病はみられなくなったが、アデノウイルス陽性の腺窩性扁桃炎は散見されている。食事摂取困難例では輸液を要している。
 COVID-19陽性例もみられた。

奈良県感染症情報

令和4年 第2週(1月10日～1月16日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 12月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減			
1	感染性胃腸炎	7.00	(5.00) ↓	→	↓	↑
2	A群溶連菌咽頭炎	0.85	(0.29) ↑↑	↑↑	→	→
3	突発性発しん	0.26	(0.29) ↓	→	→	↓
4	手足口病	0.24	(0.53) ↓	→	↓	→
5	咽頭結膜熱	0.18	(0.24) ↓	→	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第2週の新型コロナウイルス新規感染者数は953名と第1週の368名と比べて急増しています。
 昨年未の年末以降、感染者が増加傾向にあります。また、県内でも確認されているオミクロン株の感染力の強さも懸念されます。

ウイルスとの戦いは、正しい情報(エビデンス)に基づいて、冷静に対処することが何よりも重要です。
 県では、感染の拡大に対応できる医療提供体制を堅持するとともに、3回目のワクチン接種を迅速に進めることにより、県民の命を守るため全力で取り組みます。

県民のみならずには、適切に感染防止を図りながら、できるだけ日常生活を維持していただくようお願いいたします。

◆県内概況(その他の感染症)◆

感染性胃腸炎の報告数が前週に比べて増加しており、特に郡山保健所管内、中和保健所管内での報告が多くなっています。原因病原体の多くは患者の便から大量に排出されますので、おむつの処理後やトイレの後には手洗いを徹底し、感染予防に努めましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

感染性胃腸炎が続いている。下痢症状が長引くが全身状態は良好な症例がほとんどである。
 迅速検査で溶連菌とアデノの両方が陽性となる症例があった。
 感染経路不明なCOVID-19の児童があった。症状は発熱と咳。
 インフルエンザは無い。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

微熱、軽度の鼻水程度の感冒が多いが、Covid19検査陽性例はなかった。
 嘔吐、下痢の感染性胃腸炎が流行、発熱を伴った例は少ない。軽症経過で家族内感染も無い例が多い。
 手足口病は減少した。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ウイルス性胃腸炎が増加、症状はノロウイルス感染様。
 遅延する呼吸器感染症が増えている。ほとんどがウイルス性上気道炎だが、COVID-19との鑑別が必要となっている。
 インフルエンザの流行はみられない。RSウイルス感染は散発。手足口病、アデノウイルス咽頭炎はみられるが減少している。

奈良県感染症情報

令和4年 第3週(1月17日～1月23日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0741-47-3183

今週の概要

- 新型コロナウイルス感染症陽性者の方と接触のあった方へ

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	9.12	(7.00) →	↗	→	→
2	A群溶連菌咽頭炎	0.85	(0.85) ↑↑	↓	↑↑	↓
3	RSウイルス感染症	0.24	(0.03) ↑↑	↓	↑↑	↓
4	咽頭結膜熱	0.15	(0.18) ↓	↘	↓	→
5	ヘルパンギーナ	0.12	(0.03) ↑↑	↑	↑↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第3週の新型コロナウイルス新規感染者数は2065名と、前週より約3倍に増加しています。
 昨年の年末以降、感染者が増加傾向にあります。また、県内でも確認されているオミクロン株の感染力の強さも懸念されます。
 ウイルスとの戦いは、正しい情報(エビデンス)に基づいて、冷静に対処することが何よりも重要です。
 県では、感染の拡大に対応できる医療提供体制を堅持するとともに、3回目のワクチン接種を迅速に進めることにより、県民の命を守るため全力で取り組みます。
 県民のみならず、適切に感染防止を図りながら、できるだけ日常生活を維持していただくようお願いいたします。

◆ 県内概況(その他の感染症)◆

感染性胃腸炎が増加しています。こまめに流水と石けんによる手洗いを行うようにしましょう。

◆ 新型コロナウイルス感染症陽性者の方と接触のあった方へ◆

現在県内において、新型コロナウイルス感染症の感染が急拡大していることから、当面の間、保健所の濃厚接触者の特定にかかると業務については、感染の可能性の高い家族や重化しやすい方に絞ることで、対象者を迅速に把握し、適切な療養につながることを優先し対応させていただきます。
 陽性者の方と接触のあった方への相談窓口等は下記のURLをご参照ください。



◎ 新型コロナウイルス感染症陽性者の方と接触のあった方へ (奈良県 HP)
<https://www.pref.nara.jp/60130.htm>

● 濃厚接触者とは?

1. 家族等、陽性者と同居している方
2. 発症日の2日前(無症状の方は発症日の2日前)から現在まで接触のあった方で、以下のいずれかに該当する方
 - ① 長時間の接触(車内等を含む)があった方
 - ② 適切な感染防護(マスク等)なしに陽性者を診察、看護もしくは介護していた方
 - ③ お互いにマスク等の必要な感染予防策なしで、手の触れることの出来る距離(目安1m)で、15分以上の会話等の接触があった方

- 濃厚接触者となつた方は、不要不急の外出を控え、健康観察をしてください
 健康観察期間: 陽性者と最後に接触した日の翌日から教えて10日間

奈良県感染症情報

令和4年 第4週(1月24日～1月30日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0741-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	7.12	(9.12) →	→	→	→
2	RSウイルス感染症	0.29	(0.24) ↑↑	→	↑↑	→
2	突発性発しん	0.29	(0.03) ↗	↑	→	→
4	咽頭結膜熱	0.12	(0.15) ↓	→	→	→
5	A群溶連菌咽頭炎	0.03	(0.85) ↓	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第4週の新型コロナウイルス新規感染者数は5279名と、前週よりも大幅に増加しています。
 昨年の年末以降、感染者が増加傾向にあります。また、県内でも確認されているオミクロン株の感染力の強さも懸念されます。
 ウイルスとの戦いは、正しい情報(エビデンス)に基づいて、冷静に対処することが何よりも重要です。
 県では、感染の拡大に対応できる医療提供体制を堅持するとともに、3回目のワクチン接種を迅速に進めることにより、県民の命を守るため全力で取り組みます。
 県民のみならず、適切に感染防止を図りながら、できるだけ日常生活を維持していただくようお願いいたします。

◆ 小児科外来情報◆

■ 北部地区(田中小児科医院)

感染性胃腸炎は減少している。
 COVID-19が見られる。家庭内感染例は多い。
 乳幼児の鼻風邪が見られるがRSの検査はしていない。
 インフルエンザなどの届出疾患はない。

■ 中部地区(南内科子どもクリニック)

保育園等でCovid19発生、検査希望の連絡が増加、陽性者もあり。
 微熱、咽頭痛の訴えが多い。感染性腸炎は減少してきた。
 その他の届け出疾患はなかった。
 インフルエンザは2年間見られず。

■ 南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

胃腸炎は減少してきた。
 アデノウイルス咽頭炎は散見されている。インフルエンザ、RSウイルスの流行はない。
 普通感冒症状のうち、COVID-19陽性者が散見されている。
 咽頭痛の多くは咽頭所見は乏しい。臨床症状での鑑別は困難。



出典:国立感染症研究所ホームページ
<https://www.nid.go.jp/nid/ja/ncell-poster2013.html>

奈良県感染症情報

令和4年 第5週(1月31日～2月6日)
奈良県感染症情報センター(奈良保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 県への対応・発熱等の相談について
- 1月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	5.38	→ (7.12)	→	→	→
2	突発性発しん	0.41	↑ (0.29)	↑	↑	→
3	手足口病	0.26	→ (0.03)	→	→	↓
4	RSウイルス感染症	0.24	↑ (0.29)	↓	↑	↑↑
5	A群溶連菌咽頭炎	0.09	→ (0.03)	→	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第5週の新型コロナウイルス新規感染者数は6,498名と第4週の5,279名より増加しています。
 県民の皆さまには、「適切な感染防止」を心がけ、「日常生活を維持していただくよう、お願いいたします。」

◆ 県内概況(その他の感染症)◆

第5週の感染性胃腸炎の定点当たり報告数は5.38と第4週の7.12から減少しています。この他の感染症も特に大きく増加傾向にはありません。また、今年に入ってから第5週までインフルエンザの報告はあります。

◆ 県の対応・発熱等の相談について

- 新型コロナウイルス感染症については、県のホームページに最新情報を掲載しています。
- 発熱等の症状のある方は、まず、身近な医療機関に電話相談してください。
 身近な医療機関がない方は、「新型コロナウイルス・発熱患者受診相談窓口」に電話相談してください。
- 発熱等の症状がない場合でも、感染の不安のある方は、「新型コロナウイルス・発熱患者受診相談窓口」に電話相談してください。
- 奈良県における新型コロナウイルス感染症にかかわる検査対象
★ 症状の有無にかかわらず、感染リスクのある方(下記は例示であり、必要に応じて検査対象となります。)
 ・ 感染判明者との接触があった方、感染リスクのある場所に滞在された方(いずれも検査前2週間以内)
 ・ 勤務先や通学先、自宅などに、発熱等の有症状者がおられる方
 ・ 医療従事者、福祉施設従事者

■ 新型コロナウイルス・発熱患者受診相談窓口(日帰国者・接触者相談センター)

相談窓口	電話番号	FAX 番号	対応時間
奈良県庁	0742-27-1132	0742-27-8565	平日・土日祝 24時間

奈良県感染症情報

令和4年 第6週(2月7日～2月13日)
奈良県感染症情報センター(奈良保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	3.82	↓ (5.38)	→	→	→
2	突発性発しん	0.21	↓ (0.41)	→	→	→
3	RSウイルス感染症	0.18	→ (0.24)	→	→	→
4	水痘	0.12	↑↑ (0.03)	↑↑	↑↑	→
5	A群溶連菌咽頭炎	0.09	↓ (0.09)	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第6週の新型コロナウイルス新規感染者数は7,672名と、第5週の6,198名より増加しています。
 昨年の年末以降、オミクロン株による感染が広がっています。
 ウイルスとの戦い、正しい情報(エビデンス)に基づいて、冷静に対処することが何よりも重要です。
 県では、医療機関や市町村との情報共有を図り、関係機関との連携のもとに新型コロナウイルス感染症対策を推進していきます。
 引き続き、県民の命を守る「医療提供体制を堅持」とともに、「3回目のワクチン接種を迅速に進める」ことにより、感染の拡大に対処します。
 県民の皆さまには、「適切な感染防止」を心がけ、「日常生活を維持していただくよう」をお願いします。

◆ 小児科外来情報 ◆

【北部地区(田中小児科医療)

少ないが感染性胃腸炎があり、1例はカンビロバクタ腸炎があった。
 濃厚接種者でない園児や学童で COVID-19 の陽性例が目立つようになった。検査を実施しづらいと診断できていない。辛い状態を経過している様様。
 細菌性髄膜炎があった。

【中部地区(南内科子どもクリニック)

外来数も少ない。軽症経過の感染性腸炎が流行。
 Covid19 陽性例が散見される。他の登録疾患はなかった。

【南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症が増している。小児では普通感冒と臨床的な違いはあまりなく、また花粉症との鑑別も必要である。
 RSウイルス感染は散見されるもインフルエンザの流行はみられない。ノロウイルスを含めたウイルス性胃腸炎の流行は続いている。



奈良県感染症情報

令和4年 第7週(2月14日～2月20日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 3月1日(火)～3月7日(月)は子ども予防接種週間です
- 新型コロナウイルスの5～11歳の子どもへの接種(小児接種)について

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	4.21	↗	↗	↗	↘
2	突発性発しん	0.21	→	↗	↗	↗
3	RSウイルス感染症	0.12	↗	↘	↗	↗
4	水痘	0.06	↗	↗	↗	↗
5	咽頭結膜熱	0.03	↗	↗	↗	↗

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↖**増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↙**減少

◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第7週の新型コロナウイルス新規感染者数は8253名と、第6週の7672名より増加しています。昨年の年末以降、オミクロン株による感染が広がっており、ウイルスとの戦いは、正しい情報(エビデンス)に基づいて、冷静に対処することが何よりも重要です。県では、医療機関や市町村との情報共有を図り、関係機関との連携のもとに新型コロナウイルス感染症対策を推進していきます。

引き続き、県民の命を守る「医療提供体制を堅持」するとともに、「3回目のワクチン接種を迅速に進める」ことにより、感染の拡大に対処します。

県民のみならずには、「適切な感染防止」を心がけ、「日常生活を維持していただくよう」お願いします。

3月1日(火)～3月7日(月)は子ども予防接種週間です

予防接種や乳幼児健診は、お子さまの健やかな成長のために一番必要な時期に受けていただくよう、市区町村からお知らせしています。必要な予防接種を済ませているかどうか、この機会に確認し、4月からの入園・入学に備えて必要な予防接種を済ませば病気を未然に防ぎましょう。

新型コロナウイルス感染症の影響で、お子さまを医療機関に連れて行くことに抵抗がある方もいらっしゃるかもしれません。しかし、特に赤ちゃんの予防接種を遅らせると、免疫がつかぬのが遅れ、重い感染症になる危険性が高まります。お子さまの健康が気になるごときからこそ、予防接種と乳幼児健診は、遅らせずに、予定どおり受けましょう。

詳しくは、かかりつけのお医者さんやお住まいの自治体にお問い合わせください。

新型コロナウイルスの5～11歳の接種(小児接種)について

日本国内に住む登録のある5～11歳の方を対象に、新型コロナウイルスの接種(小児接種)を令和4年3月から開始する予定です。ただし、自治体の準備状況によっては同年2月末から開始することもありますので、市区町村からの広報などをご確認ください。

ワクチンについての疑問や不安があるときは、かかりつけ医等によくご相談ください。原則として、住民票所在地の市町村(住所)の医療機関や接種会場で接種を受けていただきます。医療機関や接種会場を探すには、各市町村のホームページや広報、接種総合案内サイト(新型コロナウイルスナビ <https://n-cvss.mhlw.go.jp/>)などをご確認ください。

詳しくは厚生労働省HP「5～11歳の子どもへの接種(小児接種)」についてのお知らせ」

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_for_children.html)



コロナワクチンナビ



厚労省HP

奈良県感染症情報

令和4年 第8週(2月21日～2月27日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	2.35	↗	↗	↗	↗
2	突発性発しん	0.12	↗	↗	↗	↗
3	RSウイルス感染症	0.06	↗	↗	↗	↗
3	咽頭結膜熱	0.06	↗	↗	↗	↗
5	A群溶連菌咽頭炎	0.03	↗	↗	↗	↗

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↖**増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↙**減少

◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第8週の新型コロナウイルス新規感染者数は6,798名と、第7週の8,253名より減少しています。県民のみならずには、「適切な感染防止」を心がけ、「日常生活を維持していただくよう」お願いします。

◆県内概況(その他の感染症)◆

第8週の感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2.35と第7週の4.21から減少しています。この他の感染症も特に大きく増加傾向にはありません。また、今年に入ってから第8週までインフルエンザの報告はありません。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

COVID19が見られるが、感染性胃腸炎以外に登録すべき疾患はない。
 園児や学童の COVID19 は、1日の高熱で快方に向う症例がほとんどです。

中部地区(圃本内科こどもクリニック)

発熱の子供で家族状況、学校接触、等から Covid19 疑い例が増えました。

成人では検査陽性例が増え、おりに身近に迫ってきた印象。

感染性肺炎は減少してきた。他の登録疾患は見受けられず。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症の流行が続いている。小児では発症1日目に熱、頭痛、腹痛、関節痛、咽頭痛がみられるが、2日目以降は大半が解熱し、普通感冒と大差なくなっている。一部発熱の遷延する場合もある。

ウイルス性胃腸炎は減少してきた。インフルエンザの発生はみられず。



(出典)厚生労働省ホームページ
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/00001532_000224.html

奈良県感染症情報

令和4年 第9週(2月28日～3月6日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-417-3183

今週の概要

- 動物由来感染症について

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	2.41	(2.35) ↓	↓	↓	↓
2	突発性発しん	0.18	(0.12) ↓	↓	→	↓
3	咽頭結膜熱	0.12	(0.06) ↑	↓	↑↑	↓
4	RSウイルス感染症	0.09	(0.06) ↓	↓	↓	↓
5	水痘	0.06	(0) ↑	↑	↓	↓

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第9週の新型コロナウイルス新規感染者数は6911名と、引き続き高い水準で推移しています。昨年の年末以降、オミクロン株による感染が広がっています。ウイルスとの戦いは、正しい情報(エビデンス)に基づいて、冷静に対処することが何よりも重要です。県では、医療機関や市町村との情報共有を図り、関係機関との連携のもとに新型コロナウイルス感染症対策を推進していきます。引き続き、県民の命を守る「医療提供体制を堅持」とともに、「3回目のワクチン接種を迅速に進める」ことにより、感染の拡大に対処します。県民のみならずには、「適切な感染防止」を心がけ、「日常生活を維持していただくようお願いいたします。」

動物由来感染症について

「動物由来感染症」とは動物から人に感染する病気の総称です。人と動物に共通する感染症(Zoonosis:ズーノシス)は、「人獣共通感染症」や「人と動物の共通感染症」ともいわれますが、厚生労働省は人の健康問題という視点から、「動物由来感染症」という言葉を使っています。「動物由来感染症」には、人も動物も発症するもの、動物は無症状で人だけが発症するもの等、病原体によって様々なものがあります。

◎令和4年の動物由来感染症のハンドブックが掲載されています。伝播経路や病原体についての詳細は下記を参照ください。

厚生労働省HP「動物由来感染症」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_jiryou/kenkou/kekaku-kansenshou18/index.html

出典:厚生労働省HPより



奈良県感染症情報

令和4年 第10週(3月7日～3月13日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-417-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	2.00	(2.41) ↓	↓	↓	↓
2	RSウイルス感染症	0.21	(0.09) ↑	↓	↑	↑↑
3	突発性発しん	0.15	(0.18) ↓	↓	→	↑↑
4	咽頭結膜熱	0.12	(0.12) ↑	↓	↑↑	↓
5	A群溶連菌咽頭炎	0.03	(0.03) ↓	↓	↑	↓

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第10週の新型コロナウイルス新規感染者数は5212名と、引き続き高い水準で推移しています。昨年の年末以降、オミクロン株による感染が広がっています。ウイルスとの戦いは、正しい情報(エビデンス)に基づいて、冷静に対処することが何よりも重要です。県では、医療機関や市町村との情報共有を図り、関係機関との連携のもとに新型コロナウイルス感染症対策を推進していきます。引き続き、県民の命を守る「医療提供体制を堅持」とともに、「3回目のワクチン接種を迅速に進める」ことにより、感染の拡大に対処します。県民のみならずには、「適切な感染防止」を心がけ、「日常生活を維持していただくようお願いいたします。」

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

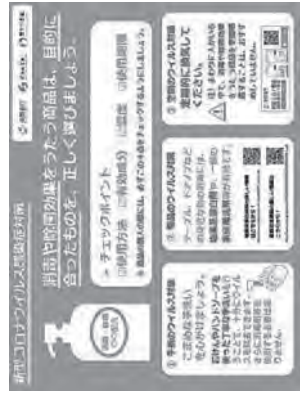
ここ1か月で、発熱のため新型コロナウイルスPCR検査を実施した例の80%が陽性であった。園児や学童が罹患し、家庭内で感染が広がる例が多い。子どもたちは軽症で経過しているようです。胃腸炎以外は無く、今年はRSは見えていない。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

学童、学校、家庭内でCovid19例に接触ありの疑い、濃厚例が増加している。感染性胃腸炎は減少した。他の登録疾患はなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

新型コロナウイルス感染症の流行が続いている。小児ではほとんどが軽症例で、入院を要することはほとんどない。家庭での感染は高確率で、保育園・学校で濃厚接触者に相当しまくても感染例が多数みられている。胃腸炎は減少、インフルエンザの流行も少ない。アデノウイルス感染やRSウイルス感染が散見されている。



新型コロナウイルス感染症対策「新型コロナウイルス感染症対策」
令和4年3月18日発行
奈良県保健研究センター
https://www.cas.go.jp/noda/assets/consumer_system_20200626_01.pdf

奈良県感染症情報

令和4年 第11週(3月14日～3月20日)
奈良県感染症情報センター(奈良保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-47-3183

今週の概要

- ◆ 新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について
- ◆ 2月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.56	(2.00) ↓	→	→	→
2	突発性発しん	0.29	(0.15) ↑	↑↑	↑↑	→
3	RSウイルス感染症	0.21	(0.21) ↑	↑	↑	↓
4	咽頭結膜熱	0.09	(0.12) ↓	↑	↑	↓
5	水痘	0.03	(0.03) ↓	→	↑↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係) ◆

第11週の新型コロナウイルス新規感染者数は3,535名と第10週の5,212名より減少しています。
新規感染者数は全国向けに比べれば緩やかに減少が続いていますが、高齢者では、高齢者施設等や医療機関における感染が継続しているとされています。
県民の皆さまには、「適切な感染防止」を心がけ、「日常生活を維持していただくよう、お願いいたします。

◆ 県内概況(その他の感染症) ◆

第11週の感染性胃腸炎の定点当たり報告数は1.56と第10週の2.00から減少しています。この他の感染症も概ね大きく増加傾向にはありません。また、今年に入ってから第11週までインフルエンザの報告はありません。

◆ 新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について

現在、「消毒」や「除菌」の効果をたつ様々な製品が出ていますが、目的にあった製品を、正しく運び、正しい方法で使用しましょう。また、どの消毒剤・除菌剤を購入する場合でも、使用方法、有効成分、濃度、使用期限などを確認し、情報が不十分な場合には使用を控えましょう。

新型コロナウイルス消毒・除菌方法一覧(それぞれ所定の濃度が異なります)

方法	モノ	手指	現在の市販品の薬液法上の整理
水及び石鹸による洗浄	○	○	—
熱水	○	×	—
アルコール消毒液	○	○	医薬品・医薬部外品(モノへの適用は「雑品」)
次亜塩素酸ナトリウム水溶液(塩素系漂白剤)	○	×	「雑品」(一部、医薬品)
手指用以外の界面活性剤(洗剤)	○	(未評価)	「雑品」(一部、医薬品・医薬部外品)
次亜塩素酸水(一定条件を満たすもの)	○	(未評価)	「雑品」(一部、医薬品)
亜塩素酸水	○	(未評価)	「雑品」(一部、医薬品)

※ 薬液法上の整理を有する製品の一部のみ、そのほかの製品は手指消毒が可能
※ 一部、食品添加物に該当する製品は食品衛生法の規制が異なる場合があります。
(出典)厚生労働省ホームページ 新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について | 厚生労働省 (nhh.wgo.jp)

奈良県感染症情報

令和4年 第12週(3月21日～3月27日)
奈良県感染症情報センター(奈良保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-47-3183

今週の概要

- ◆ 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.47	(1.56) ↓	→	→	↑↑
2	突発性発しん	0.38	(0.29) ↑	↑	↑	→
3	水痘	0.06	(0.03) ↑	→	↑↑	→
4	RSウイルス感染症	0.03	(0.21) ↓	→	↓	↓
4	咽頭結膜熱	0.03	(0.09) ↓	→	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係) ◆

第12週の新型コロナウイルス新規感染者数は2121名と、第11週の3535名より減少していますが、引き続き高い水準で推移しています。
春休みや入学式、人事異動などの季節になりまし。これまでも、大人で集まる機会をきっかけに感染が拡大しました。県民の皆さまには、「適切な感染防止」を心がけ、「日常生活を維持していただくよう、お願いいたします。

◆ 県内概況(その他の感染症) ◆

定点把握感染症の報告数は低い水準で推移しており、感染性胃腸炎の報告数も第11週から減少しています。春先の感染性胃腸炎として代表的なロタウイルス胃腸炎が流行する時期です。令和2年以降、報告数は減少していますが、今後は再び増加する可能性があります。こまめな手洗い、心をかけましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

【北部地区(田中小児科医院)】

ロタウイルス感染症以外に流行している感染症はない。
上記以外の外来受診者は花粉症と発熱の無い普通感冒の患者です。

【中部地区(岡本内科こどもクリニック)】

学童のCovid19陽性者が増加。
患児からの家族内感染例も多い。軽症の印象。
感染性胃腸炎は減少。その他の登録疾患はなかった。

【南部地区(南奈良総合医療センター小児科)】

新型コロナウイルス感染症の流行は緩やかに、小児年齢では入院を要する状態の児はほとんどいない。
普通感冒、ウイルス性胃腸炎以外には流行性疾患はみられない。



出典:厚生労働省HPより
<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/covid-19-qa-pictor-hyokarui-kuetsisussuminrte24>

奈良県感染症情報

令和4年 第13週(3月28日～4月3日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-417-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(3月)
- 咳エチケットと手洗いをお願いします

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減		
1	感染性胃腸炎	1.76	(1.47) →	→	→
2	突発性発しん	0.44	(0.38) ↑	↑	→
3	A群溶連菌咽頭炎	0.09	(0.03) ↑↑	↑↑	→
3	水痘	0.09	(0.06) ↑↑	↑↑	→
5	咽頭結核熱	0.06	(0.03) ↓	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第13週の新型コロナウイルス新規感染者数は2616名と第12週の2421名より増加しています。奈良県内における新型コロナウイルス新規感染者は、ピークを脱したものの、今なお下がりがみられない水準にあり、感染力が高いオミクロン株のBA.2系統への置き換わりが懸念されるなど、ウイルスの特性とこれまでの経験を踏まえて、第7波に備えた対策を確立しておくことが必要です。奈良県では、これまで、オミクロン株による感染状況を分析するとともに、それに対応した対策について、事例研究を行い、医療・福祉関係者と意見交換を重ねており、それを基に第7波に備えた奈良県独自の対応方針を今月中旬に決定し、実践に移したいと考えています。

◆病原体(ウイルス)検出情報(令和4年3月)◆

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名	検体採取日
ノロ	G II	3			感染性胃腸炎(3)	2021/12/23

※ウイルス分離同意日での集計結果

感染症発生動向調査において、新型コロナウイルス対応のため、医療機関より提供いただいた検体の検査が遅延しております。

◆咳エチケットと手洗いをお願いします◆

- 新型コロナウイルス感染症は、おひとりおひとりの咳エチケットや手洗い、マスク着用などの実施がとて重要で、感染リスクが高まる場合として、マスクを外す瞬間に注意が必要で、マスクなしでの会話、共同生活、体感室など、居場所の切り替わりの際にご注意ください。

出典:厚生労働省 HP

<https://www.nhlw.go.jp/content/10890000/00065112.pdf>

奈良県感染症情報

令和4年 第14週(4月4日～4月10日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-417-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 3月報(1)単位報告対象疾患(性感染症・薬物断性菌感染症)の状況

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減		
1	感染性胃腸炎	1.71	(1.76) →	→	→
2	突発性発しん	0.38	(0.44) ↑	↑	→
3	手足口病	0.09	(0) ↑↑	↑↑	→
4	A群溶連菌咽頭炎	0.06	(0.09) ↑	↑↑	→
5	咽頭結核熱	0.03	(0.06) ↓	↓	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第14週の新型コロナウイルス新規感染者数は2903名と、第13週の2616名より増加しています。奈良県内における新型コロナウイルス新規感染者は、ピークを脱したものの、今なお下がりがみられない水準にあり、感染力が高いオミクロン株のBA.2への置き換わりが懸念されるなど、ウイルスの特性とこれまでの経験を踏まえて、第7波に備えた対策を確立しておくことが必要です。保健研究センターでは、県内での変異株の流行状況を把握するために、新型コロナウイルス遺伝子解析を実施しています。引き続き、国内外の情報を収集しながら、遺伝子解析による変異株の流行状況を把握に努めたいと考えています。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

COVID-19以外の感染症に因る受診者は少ない。
 当院では、11歳以下の新型コロナウイルスワクチン接種希望者は少ない。
 接種後に発熱した子どもは無い。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

家族内感染のCOVID19陽性例が増加。乳幼児例もあるが特に重症化は無く発熱、感冒様症状で経過するものが多い。接触状況・症状から陽性と考えられる例でPCR陰性例もあり発症経過後陰性判明までの時期等の集積検討が待たれる。感染性腸炎は減少した。その他の疾患はほとんどない。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19感染症の流行は若干落ち着いてきたが、濃厚接触に相当しない小児でも散見され鑑別を要する。症状は普通感冒と大差なし。
 胃腸炎が増加傾向にあり、処置を要する例が多い。ノロ・ロタ・アデノウイルス迅速での陰性症例。



出典:厚生労働省 HPより